

## 講義録要約版作成にあたり

最近、歳のせいでしょうか、私自身も含めて都市に生きる人間は心身ともに脆弱になってしまった、と思うようになりました。生き抜くための知識・教養を忘れてしまった。これは自然を丹念に読み、一つひとつ自ら判断し、対処しながら自然とともに生きてきた日本人として恥じることではないでしょうか。

当アカデミーの校長・太田先生との出会いは『水のFORUM』九号取材の時でした。そこで自分の価値判断の前提が根拠のないものであったことに気付かされました。まさに当アカデミーで近藤先生からお習いしたFACTOID(本文106頁)です。きちんとしたことを学ぶ場を作りたい、と思うようになりました。

水のフォーラム発足時の第一目標だった機関誌『水のFORUM』一〇号ができ、それをまとめた『荒川流域を知る』ができ、次の一〇号への方向性も見え、立ち上げは今だ、とその時です、東日本大震災に見舞われたのは。映し出される津波の迫力、全てが黒い水の壁に飲み込まれていく光景、亡くなられた方々、家や仕事を流された方々、一瞬にして親を失った子どもたち、胸が張り裂けそうでした。

でもこの災害は日本列島に住む限り他人事ではありません。日本人の宿命です。古来、日本人は美しいばかりではない、優しいばかりではない自然と向き合い、打ちのめされながらも耐え、乗り越えて生き抜いてきました。

行政の縦割りを批判しますが、私たち市民も何らかの専門性を身に付け、その専門性を活かして暮らしています。だから誰もが自分で身に付けた専門以外は素人です。それで多種多様に専門分化した科学・技術が輻輳する社会に生きるのですから、あきらめが先に立つのも当然かもしれません。でもだからこそ、私たち一人ひとりがきちんとした知識を身に付け総合判断する、逞しい市民になりたいと思いました。お願いした先生方は私たちの学ぼうとする意志をご理解くださり、真摯に取り組んでくださいました。だからどの講義も素晴らしかった。「難しいけど聴くうちに目の前が開けてきた」「これまでの知識が覆されて、頭の中整理できないよ」「何も知らなかったことを知りました」といった感想をいただきました。

そこで授業を受けられた方には講義の要約版として、受けられなかった方にも講

義内容をおすそ分けしたい、と立ち読みもできる新書版作成を考えました。それを支援してくださったのが、農水省の「食と地域の交流促進対策交付金」で農家と水のフォーラムで立ち上げた「見山再生保全イニシアチブ」です。スタッフ一同慌たしい中での作成で、編集的にはだいぶ雑ですが、なんとか形になりました。

ご多忙の中、アカデミー立ち上げからお力添えくださいました太田猛彦先生、突然のお願いにも関わらず講師をお引き受けくださいました太田明功臣先生、近藤徹先生、千賀裕太郎先生、沖大幹先生に深くお礼申しあげます。

そしてなにより、趣旨にご賛同くださり夜間にも関わらずお集まりくださいました第一期生のみなさま、ありがとうございます。このアカデミーは市民が立ち上げました。市民の手で育てていきたいと思えます。

NPO法人水のフォーラム理事長 藤原悌子